

第78回国民スポーツ大会

我らかく戦う

期 日 令和6年10月5日(土)～10月15日(火)

会 場 佐賀県佐賀市 他

公益財団法人 北海道スポーツ協会

我 ら か く 戦 う

第78回国民スポーツ大会（本会期実施競技）

競技名	種別	評価	予想順位	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
陸上競技	全種別	5	個人競技総合 8位 70点 個人3位 6点 (イケ ジュニア瑠音／成年男子300m) 個人1位 8点 (城山 正太郎／成年男子走幅跳び) 個人1位 8点 (吉田 星／少年B男子3000m) 個人1位 8点 (大垣 尊良／少年B男子円盤投) 個人1位 8点 (畠山 このみ／少年A女子300mH)	今大会は選手22名(29名中)で戦っていくため、天皇杯入賞は厳しい状況にあるが、全選手が8位入賞を狙える位置にいるため、少しでも上位入賞を果たし天皇杯入賞を狙ってきたい。	吉田 星(東海大学付属札幌高等学校1年) 大垣 尊良(北海道厚真高等学校1年) 畠山 このみ(立命館慶祥高等学校3年)	女子300mHに出場する畠山 このみ(立命館慶祥高等学校3年)は、先日福岡で行われたインターハイで400m、400mHの2冠に輝き、女子最優秀選手賞を受賞した。 少年B男子円盤投げに出場する大垣 尊良(北海道厚真高等学校1年)は父であり、コーチでもある大垣 崇コーチのもと投擲を始め、昨年度の全国中学優勝、特別国体で中学3年生ながら2位に入賞する活躍を果たした。今年度は父の記録を更新する記録を出し優勝を狙っている。
ホッケー	成年男子	2	団体4位	昨年の特別国体のように、日本リーグに参戦している選手のいるチームにどれだけ最少失点で抑え、カウンター攻撃で得点すること。		
	成年女子	2	団体5位	格上のチームとの対戦が予想されるため、守りの時間が多くなるので、少ない攻撃機会です点数を取れるようにしたい。	高橋 花鈴(山梨学院大学3年)	
	少年男子	2	団体5位・20点	対戦チームにもよるが、どれだけ粘り守り切り、少ないチャンスを生かし、得点を奪うか。		
	少年女子	2	団体5位・20点	抽選次第である。	加藤 麻菜(北海学園札幌高等学校3年) 岡部 桜子(北海学園札幌高等学校3年) 塚谷 ありさ(北海学園札幌高等学校3年)	
バレーボール (6人制)	成年男子	4	団体4位	トータルディフェンス(ブロックとレシーブとの連動)、マルチターンの戦術で、相手の力を封じて、自分たちの力を発揮することで、勝利を重ねたい。	米村 恒輝((有)恒志堂) 昨シーズン、ヴォレアス北海道に所属し、V1でプレーした経験と威力のあるスパイクで、チームの得点源となってほしい。 浜田 翔太 Vリーグや海外でのプレーをもとに、多彩なトスワークとリーダーシップでチームの中心としての活躍が期待できる。	
	成年女子	3	団体7位・7.5点	単独チームでの参加となるため、日頃の練習の成果とコミュニケーション力をいかに発揮し、チャレンジャーとして全力で戦いたい。	野口 夕詠(北翔大学4年) 加納 未梨(北翔大学3年)	単独チームとしては、東日本インカレで2年連続ベスト16入り。 ここ数年は、選抜チームやVリーグチームの出場であった。久しぶりの単独チームとして北海道の成年女子代表となり、恥じない戦いをしたい。
	少年男子	3	団体4位	チームの始動が今年は例年に比べて早く、それがどのように左右していくのかわからないが、練習試合や招待試合等を活かし全員で粘り強く勝てるようにしたい。	佐藤 ラニ海(北海道科学大学高等学校3年) 高校選抜にも選ばれており能力も高く活躍が期待できる。	
	少年女子	3	団体8位	守備力が試される我慢の展開が多くなると予想できる。精度の高いレシーブから接戦に持ち込むことが出来れば、勝機が巡ってくるものと思われる。	山田 帆乃香(札幌山の手高等学校3年) 松本 夏凜(札幌山の手高等学校2年) 高橋 瞳衣(札幌山の手高等学校3年)	

競技名	種別	評価	予想順位	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
バスケットボール	成年男子	3	団体5位・12.5点	前線からプレッシャーディフェンスを仕掛け、トランジションの速いバスケットを展開する。	高橋 秀宇(星槎道都大学4年) 巧みな1対1からの得点力 堂 蘭 響(東海大学札幌キャンパス4年) 3Pシュート	皆川 悠太(江別市立江別第二小学校(教)) 3大会連続出場。チームの精神的支柱として期待。
	成年女子	2		北海道旭川市出身である町田 瑠唯選手(東京オリンピック銀メダリスト)や陸上やり投げの北口 榛花選手(パリオリンピック金メダリスト)らの活躍に続けるよう、チャレンジャー精神で挑みたい。	真山 美月(星槎道都大学4年) 前田 菜光(星槎道都大学4年) 根岸 歩那(星槎道都大学1年)	星槎道都大学 2023年度インカレ出場・2024年度新人インカレ グループステージ1勝 バスケットボール成年女子は、札幌が45年間優勝していた。この度、旭川が残り7分9点ビハインドを大逆転し、初の代表権を勝ち取った。
	少年男子	3	団体5位	身長が高くないので、足を使った厳しいディフェンスから展開の早いバスケットを心がけ、リズムとタイミングを考えながらオフェンスを組み立てシュートの確率を上げて、上位進出を狙いたい。	川村 春瑠(東海大学附属札幌高等学校2年) ブロック大会最優秀選手	北海道第一代表・・・駒澤大学附属苫小牧高等学校⇒ベスト16 北海道第二代表・・・旭川龍谷高等学校⇒1回戦敗退 川村 春瑠(東海大学附属札幌高等学校2年)、水戸部 佑宇(東海大学附属札幌高等学校2年)・・・2年連続出場
	少年女子	3	団体5位	まずはディフェンスで積極的にプレッシャーをかけながら、素早いトランジションで有利な展開に持ち込みたい。また、アウトサイドの確率が高い選手が多いので、チャンスを多く作り、得点を伸ばしていきたい。	湯浅 芽衣(北星学園女子高等学校2年) 松口 杏那(札幌山の手高等学校2年) 高橋 由莉(札幌山の手高等学校2年)	
レスリング	成年男子 女子	4	個人3位・5.5点 (山本 康稀/グレコ130kg級) 個人5位・2.5点 (伊藤 拳将/フリー74kg級) 個人5位・2.5点 (米田 侑太/フリー97kg級)	山本 康稀(日大クラブ)は全日本選手権に復帰し、2位に入賞しているため、上位入賞確実である。伊藤 拳将(東洋大学2年)、米田 侑太(国士舘大学4年)は大学でレギュラー選手なので、上位入賞してもらいたい。	令和6年度の全日本選手権2位である山本 康稀(日大クラブ)に期待したい。	野口 佳祐(帯広北高等学校2年)、野口 紗英(帯広北高等学校2年)はともに双子の兄妹で、2023年インターハイでともに3位入賞を果たしている。
	少年男子	4	個人3位・5.5点 (妹尾 優篤/グレコ55kg級) 個人3位・5.5点 (野口 佳祐/フリー60kg級) 個人5位・2.5点 (小林 冨祐/フリー65kg級)	グレコローマンスタイル・フリースタイルとも3年生を中心とした選手となり、2年生で全選手がインターハイと特別国体を経験しているため、どの選手も上位を狙える。	3年生では、妹尾 優篤(帯広北高等学校3年)、小林 冨祐(帯広北高等学校3年)が上位入賞が可能である。また、昨年インターハイで1年生ながら3位に入賞した野口 佳祐(帯広北高等学校2年)も期待が持てる。	帯広北高等学校の双子の選手である野口兄妹は昨年のインターハイでは1年生ながら2名とも3位に入賞した。男女の双子ということも話題性あり。
ウエイトリフティング	全種別	4	団体女子5位・26点 団体男女総合10位・66点 個人2位・7点 (角 琉斗/スナッチ) 個人2位・7点 (角 琉斗/クリーン&ジャーク) 個人5位・4点 (石川 英虎/スナッチ) 個人5位・4点 (石川 英虎/クリーン&ジャーク) 個人3位・6点 (榎本 凌也/スナッチ) 個人1位・8点 (榎本 凌也/クリーン&ジャーク) 個人8位・1点 (丹 翔琉/スナッチ) 個人8位・1点 (丹 翔琉/クリーン&ジャーク) 個人8位・1点 (近藤 勇介/スナッチ) 個人8位・1点 (近藤 勇介/クリーン&ジャーク) 個人1位・8点 (瀬川 瑠奈/スナッチ) 個人1位・8点 (瀬川 瑠奈/クリーン&ジャーク)	少年選手のレベルは高い。全員上位を目指せる。成年は1点でも多く入賞を目指す。女子は1名の出場、両種目とも優勝の確率は高い。	角 琉斗(北海道札幌琴似工業高等学校3年) 榎本 凌也(北海道士別翔雲高等学校3年) 瀬川 瑠奈(東京国際大学3年) 女子71kg級日本記録保持者 2023年世界選手権日本代表	瀬川 瑠奈(東京国際大学3年)はオリンピックの最終選考にまで残った逸材で、2028年ロス五輪出場を目指す。 榎本 凌也(北海道士別翔雲高等学校3年)はインターハイとの2冠を目指す。

競技名	種別	評価	予想順位	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
ハンドボール	成年男子	2		大学生中心のチームなので、走り負けせず道予選会のように守って速攻が出来れば戦えるかと思えます。	加藤 柊人(日本大学4年) 小家 慧真(札幌国際大学4年) 山本 淳平(札幌国際大学4年) 浅見 祐士(札幌国際大学2年) 小野 亮太(札幌国際大学2年) 河地 亮(札幌国際大学2年)	
	成年女子	3		全体的に若く体力とスピードには自信があるので、粘りのあるディフェンスからの速攻で得点を重ねていきたい。格上相手となるがペースを崩さず、自分たちのハンドボールが全国でどこまで通用するか試したい。	関 和香奈((福)聖樹の杜 児童福祉通所事業所にじのはし) 沢田 響(北海道エネルギー(株)) 辻 華穂(函館ポートサービス(株)) 3名の早いコンビネーションからのミドルシュートがどこまで通用するかが得点の鍵となる。 藤木 円来((福)函館カトリック社会福祉協会うみの星認定こども園) 小西 麻悠 森 媛菜(メイホク食品(株)) GK藤木のセービングから、足の速い小西、森への速攻にも期待している。	
	少年男子	3		GK西里 鳳将選手(函館大学付属有斗高等学校3年)を中心に、粘り強いディフェンスから速攻につなげたい。全体的に小柄なチームではあるが、彼らの武器である機動力を活かし走り勝負試合を展開したい。	西里 鳳将(函館大学付属有斗高等学校3年)	
	少年女子	2		1,2年生が多い若いチームなので、挑戦者の気持ち忘れず、思い切り楽しんで60分間プレーしたいです。	森 結愛(函館大学付属柏稜高等学校3年) 相馬 七海(函館大学付属柏稜高等学校2年) 稲垣 愛心(函館大学付属柏稜高等学校1年)	小川 蒼生(北海道函館工業高等学校3年)と小川 純怜(北海道函館工業高等学校1年)は兄妹
自転車	少年男子	3	個人総合18位・9点 個人4位・6点(渡邊 一気/ロードレース) 個人6位・3点(酒井 良賢/スプリント)	ロードレース出場の渡邊 一気(京都産業大学1年)は実力はそれなりにあるのだが、コースが本人向きではない。したがってレース展開を自分で作って行くくらいのつもりでないと入賞もおぼつかない。	渡邊 一気(京都産業大学1年)	渡邊 一気(京都産業大学1年) ジュニアまではJCF強化指定選手。国スポ前に1か月ほど欧州遠征して武者修行レース参戦中である。
卓球	成年男子	3		関東の大学及び一般で活躍している大学生2人と一般1人のチームになりましたが、今年は参加チームが少ない為、各ブロック大会で代表を取ってきた都府県と戦うことになります。全員で力を合わせてポイントを取りにくい卓球で勝利を目指し、ここ数年入賞できていないため、入賞できるようにしたいと思います。		
	成年女子	3	団体5位	全選手、同一チームの選手と監督であるため、チーム一丸となって戦いたい。	北川 加純((株)ドウデン)	北川 加純((株)ドウデン)は、日本卓球リーグ 令和6年前期6位(2部)全選手、JR北海道所属。
	少年男子	3	団体5位	オール3年生というチーム構成、幼少期からライバル関係にある選手同士の化学反応が起きることで、期待以上の活躍の可能性もある。また、国スポ大会を楽しむ、卓球を楽しむ気持ちをもちながらも、勝負にこだわりたい。	濱田 直人(北海道科学大学高等学校3年)	第一代表の濱田 直人(北海道科学大学高等学校3年)は、昨年度の特別国体での勝利や全国中学ベスト8の選手など全国で上位進出する選手に複数回勝利するなど成長著しいので、活躍が期待できる。
	少年女子	3	団体5位	チーム一体となって戦いたい。		
軟式野球	成年男子	3	団体8位	投手を中心に守り勝つ野球を目指します。全道大会では、5試合で3失点、投手力もあり打線ではホームラン6本とパンチ力があり、切れ目のない打線も注目です。北海道代表の誇りを胸にベスト8目指して戦います。	多和田 真三(元西武)を打ち崩したJA道央チーム 自慢の投手陣 小川 良(道央農業協同組合) 手代木 陸(道央農業協同組合) 飯田 瑛人(道央農業協同組合) 森本 祐太(道央農業協同組合) 全道大会3試合連続ホームラン	
相撲	成年男子	3		ふるさと選手(学生)も活用し予選通過を目指す。		佐藤 勇輝(北広島市役所)と佐藤 友輝(安平町役場)は兄弟。佐藤 勇輝は通算12回目の出場。
	少年男子	3		選手全員が普段通りの戦いをすれば上位進出も見えてくる。		令和5年度全国高等学校相撲選抜大会 団体戦5位入賞 令和6年度全国高等学校相撲選手権大会 団体戦ベスト32

競技名	種別	評価	予想順位	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
馬術	全種別	3	団体2位・7点 個人1位・8点 (林 伸伍／成年男子馬場馬術) 個人1位・8点 (林 伸伍／成年男子自由演技) 個人3位・6点 (楠木 貴成／成年男子国体大障害) 個人2位・7点 (横山 瞬／成年男子国体総合) 個人1位・8点 (百瀬 光／少年男子スピハン)	今年、成年は全種目出場。少年は馬の関係でリレーと二段階には出場できないが、今年も少年の馬場には期待ができる。また、成年女子の馬場も久しぶりの出場となるので、成年男子馬場馬術とともに盛り上げてほしい。また、一昨年優勝、昨年準優勝の少年団体競技でも結果を残したい。	林 伸伍(アイリッシュアラン乗馬学校) 横山 瞬(ノーザンファーム)	林 伸伍(アイリッシュアラン乗馬学校) 2014、2016、2018年全日本馬場馬術選手権1位 横山 瞬(ノーザンファーム) 2023年全日本障害PartⅡ内国産障害飛越競技予選1位通過 梁川 正重(早来エクワインファーム) 2023年全日本障害馬術大会2023PartⅡ5位 百瀬 光(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校3年) 全日本選手権中障害D5位 津田 あいみ(北海道苫小牧東高等学校1年) 全日本チルドレンライダー障害飛越選手権37位 楠木 貴成(ノーザンファーム)は連続17回出場している。
フェンシング	成年男子	4	団体8位 (阿部 陽馬／フルーレ・エペ) (奥本 龍一／フルーレ・エペ) (水牧 拓夢／フルーレ・エペ)	若手ならではのフットワークを生かしたダイナミックなフェンシングで上位進出を目指す。	阿部 陽馬(朝日大学4年)	阿部 陽馬(朝日大学4年) 2023年インカレ出場 2024年関西リーグ優勝、王座決定戦4位 少年男子の阿部 磨郁(札幌大谷高等学校2年)と兄弟。
	成年女子	3	団体16位 (神山 天音／フルーレ・サーブル) (泉澤 カンナ／フルーレ・サーブル) (井下 玲菜／フルーレ・サーブル)	初戦を勝って勢いに乗り、上位進出を目指す。	泉澤 カンナ(北海道クラブ)	井下 玲菜(専修大学2年)は少年女子の井下 愛莉(札幌大谷高等学校2年)と姉妹。 神山 天音(北海道クラブ)は2年連続国スポ(国体)出場。
	少年男子	4	団体8位 (阿部 磨郁／フルーレ) (光川 眞生／フルーレ) (阿部 将斗／フルーレ)	若手ならではのフットワークを生かしたダイナミックなフェンシングで上位を目指す。	阿部 磨郁(札幌大谷高等学校2年)、光川 眞生(札幌大谷高等学校2年) 昨年の特別国体8位入賞のメンバー 第69回・第70回全国高等学校総合体育大会 出場	阿部 磨郁(札幌大谷高等学校2年)は、成年男子の阿部 陽馬(朝日大学4年)と兄弟。 阿部 磨郁、光川 眞生(札幌大谷高等学校2年)は2年連続で国スポ(国体)出場。
	少年女子	3	団体16位 (井下 愛莉／フルーレ) (為永 香音／フルーレ) (河村 瞳／フルーレ)	初戦を勝って勢いに乗り、上位進出を目指す。	井下 愛莉(札幌大谷高等学校2年) 為永 香音(札幌大谷高等学校2年) 河村 瞳(札幌大谷高等学校2年)	井下 愛莉(札幌大谷高等学校2年)は、成人女子の井下 玲菜(専修大学2年)と姉妹。 井下 愛莉、為永 香音(札幌大谷高等学校2年)は、3年連続国スポ(国体)出場。 河村 瞳(札幌大谷高等学校2年)は、2年連続国スポ(国体)出場。
柔道	成年男子	3	団体5位	先鋒の鷺見 仁義(北海道警察本部)は国際大会も経験しており、必ず点数を勝ち取ってくるのが原則である。中堅の石田 幸伸(天理大学4年)は、全日本学生優勝大会(団体戦)で2位に入っている実力を発揮できることを期待している。その他は失点をしないようにする展開になると考えている。	鷺見 仁義(北海道警察本部) 石田 幸伸(天理大学4年)	鷺見 仁義(北海道警察本部) 2017年 サンティアゴ世界カデ柔道選手権大会 男子55kg 3位 2017年 ポルトガルカデ 男子55kg 準優勝 2018年 インターハイ柔道大会 男子60kg 準優勝 2023年 全国警察柔道選手権大会 男子60kg 3位 石田 幸伸(天理大学4年) 2024年 全日本学生柔道優勝大会 団体準優勝メンバー
	女子	4	団体5位	中堅戦までに勝数をあげ後半につなげる。	高木 結希(北海高等学校3年)	
	少年男子	4	団体3位	昨年度は、期待されながらも不本意な成績に終わったが、雪辱を果たすべく北海道チーム一丸となって戦い、ベスト4以上を狙いたい。	夏坂 匠平(北海高等学校2年) 急成長を見せ、2年生ながら全国大会上位を狙える選手である。	
ソフトボール	成年男子	1	団体6位	まずは1勝を目標に選手全員で全力プレーを心掛けたい。予選に参加した各チームから打力の高い選手を集めたため乱打戦が予想される。打つべき部分でしっかりと安打を出すことが出来れば十分勝機はあるのではないだろうか。	大保 拓真(北海道旅客鉄道(株))	予選に参加した全チームから選手を選出している。
	成年女子	2	団体5位	全員の実力を十分に発揮し、最後まで戦います。	全員	
	少年男子	1	団体8位	高校生らしく、若々しくハツラツプレー、そしてどのチームにも負けぬ元気の良さで、1戦必勝を目指します。	松岡 拓実(北海道石狩南高等学校3年)	今回の3年生のメンバーはほぼ3年連続出場。
	少年女子	2	団体5位	初回の入りがうまくいけば、良いところまでいけると思う。		

競技名	種別	評価	予想順位	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
バドミントン	成年男子	4	団体3位	今年度成年男子は16都道府県のトーナメントで1回戦から昨年の上位チームと対戦する厳しい戦いになることが予想される。しかし、自分たちのこれまでの自信と経験を活かし戦うことが出来れば上位入賞も見えてくる。	藤原 睦月(明治大学2年) 昨年1年生でインカレの単優勝を飾っており、今大学界で一番勢いのある選手。	渡部 大(北海道旅客鉄道(株)) 2023年全国社会人 ダブルス ベスト16 光島 理貴(北海道旅客鉄道(株)) 2023年全国社会人 ダブルス ベスト16 藤原 睦月(明治大学2年) 2023年全国学生 シングル 優勝
	成年女子	3	団体9位	選手3名がそれぞれ違うチームで一緒に練習が出来ないため、個々でしっかり練習して調整してもらいたいのと、今出来ることをやって道外遠征など計画してチーム力を上げたい。	内山 真希(岐阜Bluvic)	内山 真希(岐阜Bluvic)は、日本ランキング22位でダブルスの中心選手となる。 土佐 梨緒菜(北翔大学2年)、内山 真希、石澤 未夢(honegori相模原)の3人とも北海道代表選手経験。
	少年男子	3		インターハイにおいても上位進出することが出来なかった。まずは、初戦突破を目指して戦いに臨みたい。	佐藤 楓起(札幌龍谷学園高等学校3年) 全国での経験も豊富なため、まず彼の1勝を勝ち取りたい。	
	少年女子	3	団体9位	エースの齋 優涙(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校3年)を中心に、全員が粘り強いラリーを実践する。強豪選手と比べると、技術的に劣る部分はあるが、最後まで諦めない気持ちを持って臨み、ベスト8以上の成績を目指す。	齋 優涙(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校3年) 単・複を兼ねるエース。体のサイズは大きくないが、強い精神力で試合に臨めるところが魅力の選手。	団体戦 ベスト16(酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校) 山本 希乃花(北海道旭川商業高等学校2年) 個人戦 複 ベスト8(1組)のメンバーである。
弓道	成年男子	3	団体8位・3点	初出場選手が2名、昨年入賞選手が1名のチーム編成となり平常心で試合に臨めるかがカギとなる。		
	成年女子	4	団体4位・15点	初出場選手が1名、昨年入賞選手が1名、2回目出場が1名のチーム編成となり安定した力を発揮してくれると期待している。初出場の選手は北海道成年女子の中でも急成長した若手で、大会の雰囲気呑まれる事が無ければ結果は付いてくるはず!		
	少年男子	3		遠的競技で大きな差を付けられないように辛抱し、近的競技で差を詰め、上位に食い込む。	中川 幸樹(市立札幌新川高等学校3年)	中川 幸樹(市立札幌新川高等学校3年) インターハイ団体決勝トーナメントに進出している。
	少年女子	3		実力を備えた3選手の出場で、入賞に期待したい。特に近的競技については、上位入賞を狙える選手であると思われる。	後藤 菜梨(北海道札幌東商業高等学校3年)	後藤 菜梨(北海道札幌東商業高等学校3年)は昨年に続いての出場となる。高校弓道において、国スポ(国体)2年連続出場する選手は極めて少ないと思われる。
ラグビーフットボール	成年男子	3	団体4位	昨年過去最高の6位を収めて、さらに強化を進めこれまで以上の選考が出来た。大会方式も変わり上位を狙えると思う。若手とベテランの融合が上手くいけば過去最高成績を収められる。	稲葉 逸生(旭川医科大学1年) 期待のニューカマー。花園出場。今年から大学1年生で気迫溢れるプレーが持ち味。	
	女子	3	団体3位	入賞を目指します。	三枝 千晃((株)メディカルシステムネットワーク) パリオリンピック日本代表	
	少年男子	3	団体4位	粘り強いディフェンスでロースコアに持ち込み、上位進出を狙いたい。	古谷 飛翔(札幌山の手高等学校3年) 昨年度の国体を経験しており主将を務める。	
スポーツクライミング	成年男子	3	団体8位・3点	少年男子としてチームを組んだ坂本 大河(北海道山岳・スポーツクライミング連盟)、竹内 悠真(北海道教育大学4年)は二人ともボルダー競技に強い選手なので、入賞できると期待している。	坂本 大河(北海道山岳・スポーツクライミング連盟) 竹内 悠真(北海道教育大学4年)	坂本 大河(北海道山岳・スポーツクライミング連盟) ボルダージャパンカップ2024 10位
	成年女子	3	団体8位・3点	長年チームを組む吉田 ゆな(北海道医療大学2年)、上原子 音羽(国士舘大学2年)の2人の空気感と阿吽の呼吸でバランスの取れた登りをしてくれると思う。	吉田 ゆな(北海道医療大学2年) 上原子 音羽(国士舘大学2年)	第77回国民体育大会少年女子リード8位 4回連続出場
	少年男子	3	団体(リード競技)5位 団体(ボルダー競技)8位	リード競技に力を入れている選手のレベルが高いので、しっかりと力を発揮し上位に入り、相手も平均的な高度まで到達できれば、決勝出場を狙える。		2023年高校生選手権大会 20位 リードユース日本選手権19位
	少年女子	3	団体8位・3点	しっかりとオプザベをして、情報を共有することで2人のパフォーマンスも上がり入賞できると期待しています。		
カヌー	スプリント	3	個人2位・7点 (藪 碧透/スプリント男子K-1) 個人8位・1点 (大橋 玲奈/スプリント女子C-1)	昨大会で入賞した成年選手が今大会も出場するため、善戦が予想される。昨年入賞を逃した選手も競技歴が長いこともあり善戦を期待したい。	藪 碧透(自衛隊体育学校) 大橋 玲奈(㈱NTSロジ)	大橋 玲奈(㈱NTSロジ) 令和6年度カヌーマラソン日本代表選手
アーチェリー	全種別	2	第10位 (大隅 凱/少年男子)	各種別入賞レベルの選手はいないため、チームの総合力で勝負をする必要がある。高得点ではなく毎回同じ点数が出せるように安定性を身に付けるとともにメンタル面を監督団と選手同士でのコミュニケーションをとりつつ強化・ケアをする必要がある。	大隅 凱(市立札幌啓北商業高等学校3年)は昨年度の全国高等学校選抜出場 第17位	大隅 凱(市立札幌啓北商業高等学校3年)は昨年度の全国高等学校選抜、特別国体出場、高2・高3と連続出場。 齋藤 胡果(帯広市立帯広第八中学校3年)は中学生。 蓬田 昌伸(マフテック(株))は4大会連続出場。

競技名	種別	評価	予想順位	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
空手道	全種別	3	個人3位 (佐藤 優輝/成年男子形) 個人3位 (後藤 星奈/成年女子)	国体での上位入賞の経験が少ない選手であり苦戦が予想されるが、国際大会、全国大会など実績のある選手が多くいるため今大会での入賞を期待する。		
銃剣道	成年男子	3	団体8位・3点	大会1日目(10月12日)初戦をしっかり勝ち抜き、大会2日目の2回戦に繋げる。2回戦は特に集中して勝ち抜き、最終日の戦いに繋げたい。		令和6年8月全日本銃剣道選手権大会に小林 凌太(陸上自衛隊東千歳駐屯地)選手が出場し、1回戦接戦となるも惜しくも敗退。 過去の国体において、小林 凌太選手は北海道チーム、柴田 将誠(陸上自衛隊東千歳駐屯地)選手は福岡県チームでそれぞれ少年男子選手として参加経験を有する。
	少年男子	4	団体4位・15点	大会1日目(10月12日)初戦をしっかり勝ち抜き、第2回戦に繋がる試合を展開する。		令和6年7月に行われた全日本高校生大会団体戦(3人制)において、準優勝した。 谷 武蔵選手(北海道名寄高等学校2年)は連続出場(前回大会5位入賞) 石山 蓮選手(北海道名寄高等学校1年)と石山 響選手(北海道名寄高等学校1年)は、双子でそれぞれ初出場。 谷 武蔵選手の兄は昨年、神奈川県チームの選手として、少年男子優勝の成果を収め、現在は兄弟全員が名寄市において銃剣道の稽古を行っている。
なぎなた	成年女子	3		基本どおり落ち着いて大きな技で一本を取る。		
	少年女子	3		強化練習で取得した基本と試合経験から一本を取る。		
ボウリング	成年男子	3	団体8位・3点 個人総合8位・1点	厳しい戦いが予想されるが、昨年2人チーム戦で入賞した鈴木 恒有(北海道開発局札幌開発建設部)、松村 勇汰(高砂台ボウリングクラブ)を中心に勢いのある若手2選手をまとめ上げ、特に短期決戦となる団体戦での爆発に期待し入賞を目指したい。	鈴木 恒有(北海道開発局札幌開発建設部) 松村 勇汰(高砂台ボウリングクラブ) 高橋 麗也(アクセンチュア(株)) 工藤 和也(ヤマト運輸(株))	鈴木 恒有(北海道開発局札幌開発建設部) 令和4年全日本年齢別選手権 40歳代の部 準優勝 令和5年 特別国民体育大会 2人チーム戦5位 松村 勇汰(高砂台ボウリングクラブ) 令和5年 特別国民体育大会 2人チーム戦5位 高橋 麗也(アクセンチュア(株)) 令和5年 東日本選手権 2人チーム戦3位 工藤 和也(ヤマト運輸(株)) 令和5年 東日本選手権 4人チーム戦5位
	成年女子	2	個人総合8位・1点 個人8位・1点 (番井 琴音/個人戦)	競技種目は、団体戦(4人・2人チーム戦)と個人戦となっている。経験豊富な2名を中心としてチームワークを醸成し、レーンコンディションの早期把握に努め、各種目の入賞を目指して戦いに臨みたい。	番井 琴音(CIZA DINING&BAR) ナショナルチームに選出されている。	番井 琴音(CIZA DINING&BAR) 東日本選手権8位 前回国体個人戦8位 古賀 直美(北海道ボウリング連盟) 全日本産業別選手権(団体)A部門優勝、決勝7位メンバー
	少年男子	4	団体8位・3点	個人戦での入賞は難しいと思うが、安定した投球で団体戦の8位入賞を期待する。		本年度の全日本高校選手権大会では2人とも決勝進出はならなかったが、全国大会の経験も多く、それなりの成績を残している。 橋本 旺典(立命館慶祥高等学校2年) 3年連続出場 田村 悠(北海道砂川高等学校1年) 2年連続出場
	少年女子	4	団体8位・3点 個人総合8位・1点 個人8位・1点 (畑中 凜華/個人)	畑中 凜華(北海道札幌東商業高等学校1年)、中田 京花(北海道釧路工業高等学校2年)ともに国スポ初出場なので、日頃の練習以上の力を引き出せるように精神面を支えたい。	畑中 凜華(北海道札幌東商業高等学校1年) 全日本小学生競技大会から全日本中学選手権および全日本高校選手権と全国大会に出場しており、ビッグゲームも出せる力がある。	
ゴルフ	成年男子	4	団体3位	小村 隼人(東北福祉大学3年)・山本 詠太(大手前大学2年)両選手は昨年に引き継ぎの為、落ち着いたプレーが可能であろう。新加入の高橋 遼羽(日本大学4年)選手の出来栄によって成績が左右されると思われる。特別難しいことはせず、普段のプレーを心掛けてもらいたい。		
	女子	5	団体1位 個人総合1位 個人1位 (島田 ゆら/女子)	昨年同等レベルの選手を選考することができた。昨年は4位と悔しい思いをしたので、今年はそれを払拭し、優勝を狙えるチームに仕上がっている。個人・団体と合わせて1位を狙いたい。	島田 ゆら(東北福祉大学2年)	
	少年男子	3	団体15位	高校生の2名ゴヴォロフスキー遼河(札幌光星高等学校2年)、鈴木 慶士(札幌光星高等学校3年)が成績を引っ張ってほしいところ。特にエースのゴヴォロフスキー遼河が好成績であれば、その分中学生が安心してプレーできるので期待したい。	ゴヴォロフスキー遼河(札幌光星高等学校2年) 鈴木 慶士(札幌光星高等学校3年)	

競技名	種別	評価	予想順位	戦いの展望	有望選手・チーム	特記事項
トライアスロン	成年男子	3	個人30位 (中島 大海/成年男子) 個人35位 (目黒 凌飛/成年男子)	北海道代表としての誇りと意識を高く持ち、入賞を目指してポイントを獲得できるようベストを尽くしてレースに挑みます。		
	成年女子	1	個人60位 (吉牟田 萌花/成年女子) 個人80位 (大森 綾香/成年女子)	完走を目指します。		
高等学校野球	軟式 少年男子	3	団体3位	公式戦2戦でノーヒットを達成しているエース大谷 哲也(北海道科学大学高等学校3年)をどれだけ攻撃面が援助できるかが勝利への鍵となる。少ないチャンスをものにする勝負強さを発揮したい。	大谷 哲也(北海道科学大学高等学校3年) 選手権ではミスと四球から1失点したが9回をノーヒットに抑えた。支部予選でもノーヒットノーランを達成。	第70回わかやま国体以来の出場となり、その時の3位を越えられるよう全力で戦う。